

西中だより

学校教育目標

目指す生徒像：豊かな心と学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる生徒

目指す学校像：すべての生徒に喜びと感動を育み、笑顔あふれる西中学校

川口市立西中学校

〒332-0028

川口市宮町16-1

Tel 048-253-1231

Fax 048-251-6792

令和6年11月29日発行

やばいはやばい？

校長 三浦 伸之

9月下旬から11月にかけて、3年生一人ひとりと面接形式による校長面談を行いました。校長面談は毎年なのですが、生徒と一対一でお話ができる楽しみのひとつです。質問の内容は進路のことをメインに、趣味や特技のこと、得意な教科のこと、生徒会や委員会のこと、部活動のこと、中学校生活で思い出に残っていることなどを質問しています。もう一つ「将来就きたい職業や何か夢や希望がありますか」という質問もしています。なりたい自分の将来像を思い浮かべている生徒もいれば、まだ決まっていないという生徒それぞれの思いや考えを聴くことができました。その回答の中に、西中の先生の授業を受けてから学校の先生を目指そうと考えるようになりましたという生徒が数名いました。とても嬉しく感じました。いつの日か西中で出会った先生と教え子が偶然にも同じ職場で机を並べる日が来ることを願うばかりです。

3年生には何よりも健康を大切にしてください。これからの受験期を乗り越えて、あたたかな春を迎えて欲しいと思います。

先日、「やばい」は子どもの成長を奪っているという記事を見ました。「やばい」という言葉は日常的によく聞く言葉です。「やばい」は肯定的な意味でも否定的な意味でも使うことができます。例えば、〇〇さんが掃除の時間に落ちていたゴミをひとりで全部片づけたという話を聞いて、「〇〇さん、やばいよね」ということがあります。この「やばい」は、ひとりで片づけた〇〇さんへの称賛の意味があります。また、〇〇さんは掃除の時間に当番をさぼって遊んでいたという話を聞いて、「〇〇さん、やばいよね」ということがあります。この「やばい」は掃除をさぼった〇〇さんの行動はいけないことだという意味があります。

この記事では、あらゆる場面で使することができる「やばい」という言葉は状況を思考せず何も考えないで使いがちであり、このように一律に言葉を使うことは人と人との質のよいコミュニケーションに欠かせない繊細な言葉選びの弊害になっていると述べられていました。

現在の社会の中には若者がよく使う言葉、「やばい、きもい、うざい、えぐい、だるい、エモい、ハズい・・・」いわゆる若者言葉が溢れています。

記事によると、これらの言葉だけで済ませてしまうことが習慣化している子どもは何の違和感もなく、このことが人間関係にも大きく影響するとのことでした。人と人との関係は言葉の意味と価値を同質のものとして扱う人同士がうまくいくのだそうです。

「やばい」などの表現が習慣化している人は同じように「やばい」などの表現を使う人と、状況を言葉で表現する人は同じように状況を言葉で表現する人とコミュニケーションを形成しやすくなり、自然と思考や行動も似てくるとのことでした。

子どもの言葉遣いを正す意図は、人とのコミュニケーションを通して思考する場面を増やすことです。さらに考えるという経験を積み重ねて物事を多面的に見ることができるよう大人へと成長させることにあります。

記事では、その第一歩はあいさつができる子どもを育てることだと述べられていました。共感的に相手に近づける子どもは自己中心的にならず、相手の気持ちを感じるとることができ、多様な人たちから知らず知らず多くのことを学んでいけるのだそうです。

あいさつは子ども自ら未来を切り拓いていくためのパスポートなのです。

